



# 株式会社グローバルダイニング

(証券コード：7625)

2021年12月期通期 決算説明会資料  
February 17<sup>th</sup>, 2022

# Contents

## 2021年12月期通期 決算報告

### I. 業績サマリー

• 損益計算書の概要(連結)	4
• 会社別実績概要	5
• 貸借対照表の概要(連結)	6
• キャッシュ・フローの概要(連結)	7
• 過去5年間 売上高等主要数値の推移(連結)	8

### II. 事業計画サマリー

• 2022年12月期 通期計画(連結)	10
• 2022年12月期 会社別計画	11

### III. 2021年の概況

• 国内売上高前年対比率 月次推移	13
• 国内客数と客単価の前年同期比推移	14
• 2021年の振り返り	15
• 2021年の出退店	16
• 国内業態別業績	17
• 米国店舗別業績	18
• 新店、業態変更、米国子会社活動紹介	19

### IV. 2022年の取り組み

• 2022年の取り組み	24
• 2022年新店紹介	25

### 参考資料

• 展開コンセプト	27
• 国内コンセプト別全店売上高推移	28
• 国内コンセプト別全店営業利益率推移	29
• 損益計算書概要 – 国内	30
• 損益計算書概要 – 連結子会社(米国)	31
• 2021年12月期通期 赤字店舗一覧	32

# I. 業績サマリー

---

# 損益計算書の概要 (連結)

連結	2021年12月期 通期					
	実績		修正計画値		差異	
売上高	9,573	100.0%	9,484	100.0%	88	0.9%
営業利益	727	7.6%	781	8.2%	▲53	▲6.9%
経常利益	1,066	11.1%	913	9.6%	152	16.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,046	10.9%	1,023	10.8%	22	2.2%
1株当たり 当期純利益	101円25銭		99円24銭			

2020年12月期 通期					
実績			差異		
	5,667	100.0%	3,905	68.9%	
	▲1,175	▲20.7%	1,902	-	
	▲1,102	▲19.5%	2,169	-	
	▲1,509	▲26.6%	2,555	-	
	▲147円56銭				

期中平均株数 (単位: 千株) 為替レート  
 2021/12/31: 10,331 USD/JPY 115.02  
 2020/12/31: 10,229 USD/JPY 103.50

(単位: 百万円)

## ●売上高

[国内] 緊急事態宣言・まん延防止等重点措置下において、通常営業(商業施設店舗を除く)を継続したことで増収。

計画値対比: ▲0.6% 2020年対比: +52.0% (既存店+80.5%) 2019年対比: ▲12.6% (既存店+15.6%)

[米国] 屋外営業の好調に加え、店内営業の人数制限も全面解除となり大幅増収。

計画値対比: +4.7% 2020年対比: +238.8% 2019年対比: +209.9% ※USドルベース

## ●コスト

前期の国内不採算店舗の閉店、国内外ともに大幅増収の影響により、売上原価率は良化。

## ●その他

金融機関からの借入・借換の実施、業績改善等の財務体質の健全化により、当面の事業活動に必要な手元資金を確保できたことでG C注記を解消。

[国内] 商業施設店舗における新型コロナウイルス感染拡大防止協力金の支給により「協力金収入(営業外収益)」235百万円を計上。

一部店舗の業績低迷や閉鎖店舗の撤退工事費用の見積り変更等で「減損損失(特別損失)」142百万円を計上。

[米国] 従業員雇用継続税額控除(通称ERTC)により「受取還付金(営業外収益)」90百万円(783千USドル)を計上。

PPP融資(\*)の返済免除により、「債務免除益(特別利益)」148百万円(1,288千USドル)を計上。

※「新型コロナウイルス支援・救済・経済安全保障法(CARES法)」に基づく中小企業向け支援策「給与保護プログラム(Paycheck Protection Program, 通称PPP)」

# 会社別実績概要

国内	2021年12月期 通期						2020年12月期 通期			
	実績		修正計画値		差異		実績		差異	
売上高	7,966	100.0%	8,013	100.0%	▲47	▲0.6%	5,240	100.0%	2,725	52.0%
営業利益	593	7.5%	672	8.4%	▲78	▲11.7%	▲1,094	▲20.9%	1,687	-
経常利益	822	10.3%	743	9.3%	79	10.7%	▲1,018	▲19.4%	1,841	-
当期純利益	668	8.4%	710	8.9%	▲41	▲5.8%	▲2,290	▲43.7%	2,959	-

(単位：百万円)

米国	2021年12月期 通期						2020年12月期 通期			
	実績		修正計画値		差異		実績		差異	
売上高	1,606	100.0%	1,471	100.0%	135	9.2%	426	100.0%	1,180	276.5%
営業利益	133	8.3%	108	7.4%	24	22.8%	▲81	▲19.1%	215	-
経常利益	243	15.2%	170	11.6%	72	42.7%	▲83	▲19.6%	327	-
当期純利益	377	23.5%	312	21.3%	64	20.6%	▲83	▲19.6%	460	-

当初想定為替レート： USD/JPY=110.00

(単位：百万円)

※上記は連結修正前の会社別数値です。

2020年12月期は米国の業績悪化に伴い、国内の特別損失として関係会社株式評価損864.9百万円を計上しております。当該関係会社評価損は、連結決算上では相殺消去されております。

# 貸借対照表の概要 (連結)

	2021年12月期		2020年12月期		増減	
	通期		通期			
流動資産	2,475	32.2%	881	14.9%	1,594	180.9%
現預金	1,850		321		1,529	
売掛金	300		212		88	
原材料及び貯蔵品	178		122		55	
商品及び製品	14		8		5	
前払費用	117		88		29	
未収入金	13		105		▲91	
その他	0		23		▲22	
固定資産	5,209	67.8%	5,053	85.1%	156	3.1%
有形固定資産	4,130	53.8%	3,979	67.1%	151	3.8%
建物・構築物	1,245		1,134		111	
工具器具	192		131		60	
土地	2,669		2,593		75	
建設仮勘定	14		4		10	
リース資産	9		116		▲106	
無形固定資産	1	0.0%	2	0.0%	0	▲36.1%
投資その他の資産	1,077	14.0%	1,071	18.1%	5	0.5%
投資有価証券	17		13		3	
長期前払費用	18		8		9	
差入保証金	1,041		1,049		▲7	
総資産	7,685	100.0%	5,934	100.0%	1,750	29.5%

(単位：百万円)

	2021年12月期		2020年12月期		増減	
	通期		通期			
負債合計	4,541	59.1%	3,978	67.0%	563	14.1%
流動負債	2,229	29.0%	2,292	38.6%	▲62	▲2.7%
買掛金	288		228		59	
短期借入金	208		730		▲521	
1年内返済予定長期借入金	384		252		131	
未払金	133		96		37	
未払費用	595		477		118	
預り金	240		214		26	
未払法人税等	27		92		▲65	
未払消費税	296		104		191	
その他	55		95		▲40	
固定負債	2,312	30.1%	1,686	28.4%	625	37.1%
長期借入金	1,580		958		621	
長期リース債務	82		105		▲22	
退職給付に係る負債	43		40		3	
繰延税金負債	33		33		0	
資産除去債務	571		549		22	
純資産	3,143	40.9%	1,955	33.0%	1,187	60.7%
資本金	42		30		11	
資本剰余金	2,141		3,596		▲1,454	
利益剰余金	1,059		▲1,453		2,512	
為替換算調整勘定	▲116		▲231		115	
その他	16		13		2	
負債・純資産合計	7,685	100.0%	5,934	100.0%	1,750	29.5%

現預金の営業活動以外の主な収支は、借入返済による減少の他、銀行借入とPPP融資(米国)で686百万円の増加。

未収入金は、撤退店舗の敷金返還等で91百万円の減少。建物・構築物および工具器具は、減価償却や減損損失による減少の他、新規出店等により171百万円の増加。土地は、米国子会社の為替換算で75百万円の増加。リース資産は減損損失による影響等で106百万円の減少。

短期借入金は、通常返済による減少の他、長期借換で521百万円の減少。

1年内返済予定を含む長期借入金は、通常返済やPPP融資(米国)の債務免除による減少の他、銀行借入や短期借入の借換で752百万円の増加。

未払費用および預り金は、売上高の増加に伴う人件費増加の他、下半期賞与の支給等で144百万円の増加。

未払法人税等は、2019年12月期末納付分の納付等で65百万円の減少。未払消費税は、売上高の増加に伴い191百万円の増加。

純資産は、当期純利益の影響による増加の他、資本剰余金を繰越損失の補填に充当した為、資本剰余金が減少し、利益剰余金が増加。

# キャッシュ・フローの概要（連結）

	2021年12月期 通期	2020年12月期 通期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,417	▲305	1,722
税金等調整前当期純損益	1,072	▲1,432	2,505
減価償却費	183	185	▲2
減損損失	142	482	▲340
債務免除益	▲148	0	▲148
受取還付金	▲90	0	▲90
協力金収入	▲235	0	▲235
売上債権の増減額	▲88	146	▲234
たな卸資産の増減額	▲60	48	▲108
仕入債務の増減額	58	▲149	208
未払費用増減額	117	115	1
未払消費税増減額	191	25	166
還付金の受取額	90	0	90
協力金の受取額	235	0	235
法人税等の支払額	▲54	0	▲54
その他	4	275	▲272
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲248	▲509	260
有形固定資産の取得による支出	▲314	▲82	▲231
資産除去債務の履行による支出	▲43	▲464	421
保証金の回収による収入	135	52	82
保証金の差入による支出	▲26	▲13	▲12
その他	0	▲2	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	355	820	▲465
短期借入金の純増減額	▲521	730	▲1,251
長期借入れによる収入	1,132	390	742
長期借入金の返済による支出	▲250	▲289	38
その他	▲6	▲11	6
現金及び現金同等物に係る換算差額	5	▲4	9
現金及び現金同等物の増減額	1,529	2	1,527
現金及び現金同等物の期首残高	321	319	2
現金及び現金同等物の期末残高	1,850	321	1,529

## ● 営業活動によるキャッシュフロー

前年比+1,722百万円の**1,417百万円のキャッシュイン**。

## ● 投資活動によるキャッシュフロー

撤退店舗の引き渡し完了で保証金の回収による収入もあったが、新規出店や設備投資、撤退工事費用の支出等により、**248百万円のキャッシュアウト**。

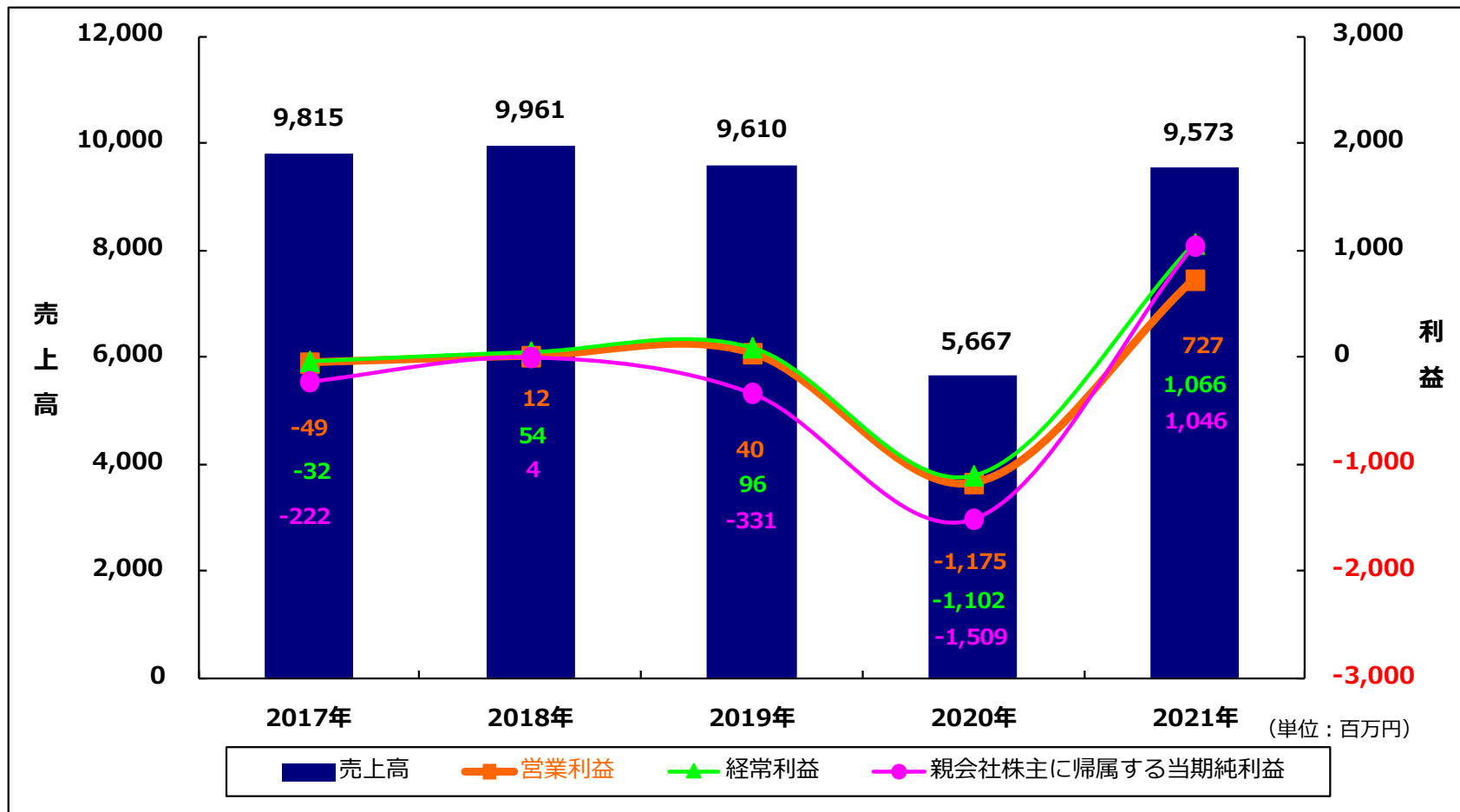
## ● 財務活動によるキャッシュフロー

総額686百万円の新規借入、326百万円の借入返済等で**355百万円のキャッシュイン**。

現金及び現金同等物は、**1,529百万円のキャッシュイン**となり、**期末残高は1,850百万円**。

(単位：百万円)

# 過去5年間 売上高等主要数値の推移 (連結)



2020年は、国内・米国ともに新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、売上高・利益ともに大幅減少。

2021年は、国内では緊急事態宣言・まん延防止等重点措置下において、通常営業(商業施設店舗を除く)を継続したことで、既存店売上高は2019年を上回った。米国についても屋外営業の好調や店内営業の再開により、売上高は大幅に増加。

連結売上高はコロナ前の2019年と同水準の結果となった。

連結最終損益は大幅増収の他、米国における大規模な経済政策(PPP融資の返済免除、従業員雇用継続税額控除)等により、10億円を超える黒字となった。



## Ⅱ. 事業計画サマリー

---

# 2022年12月期 通期計画（連結）

連結	2022年12月期 通期		2021年12月期 通期			
	計画値		実績値		差異	
売上高	8,102	100.0%	9,573	100.0%	▲1,471	▲15.4%
営業利益	106	1.3%	727	7.6%	▲621	▲85.4%
経常利益	156	1.9%	1,066	11.1%	▲909	▲85.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	141	1.7%	1,046	10.9%	▲904	▲86.4%
1株当たり 当期純利益	13円68銭		101円25銭			

想定為替レート： USD/JPY=113.00

(単位：百万円)

## ●売上高

### [国内] 2021年実績比 ▲16.6%

新店舗オープンによる売上増加要因もあるが、コロナ渦のダメージによる世界的な経済停滞やインバウンド需要の低迷等により、2021年実績を大きく下回る見込み。

### [米国] 2021年実績比 ▲7.8% ※USドルベース

2021年12月期の好調要因である屋外営業を継続予定だが、保守的に見積もり2021年実績を下回る見込み。

## ●コスト

国内外共に減収想定のため売上原価率は悪化する見込み。

## ●その他

国内では第1四半期に商業施設店舗における新型コロナウイルス感染拡大防止協力金の計上を見込む。国内外ともに減収想定ではあるが最終損益はそれぞれ黒字着地を想定。

# 2022年12月期 会社別計画

国内	2022年12月期 通期		2021年12月期 通期			
	計画値		実績値		差異	
売上高	6,645	100.0%	7,966	100.0%	▲1,320	▲16.6%
営業利益	33	0.5%	593	7.5%	▲559	▲94.3%
経常利益	84	1.3%	822	10.3%	▲738	▲89.8%
当期純利益	69	1.0%	668	8.4%	▲599	▲89.6%

(単位：百万円)

米国	2022年12月期 通期		2021年12月期 通期			
	計画値		実績値		差異	
売上高	1,456	100.0%	1,606	100.0%	▲150	▲9.4%
営業利益	72	5.0%	133	8.3%	▲61	▲45.8%
経常利益	72	5.0%	243	15.2%	▲171	▲70.3%
当期純利益	72	5.0%	377	23.5%	▲304	▲80.8%

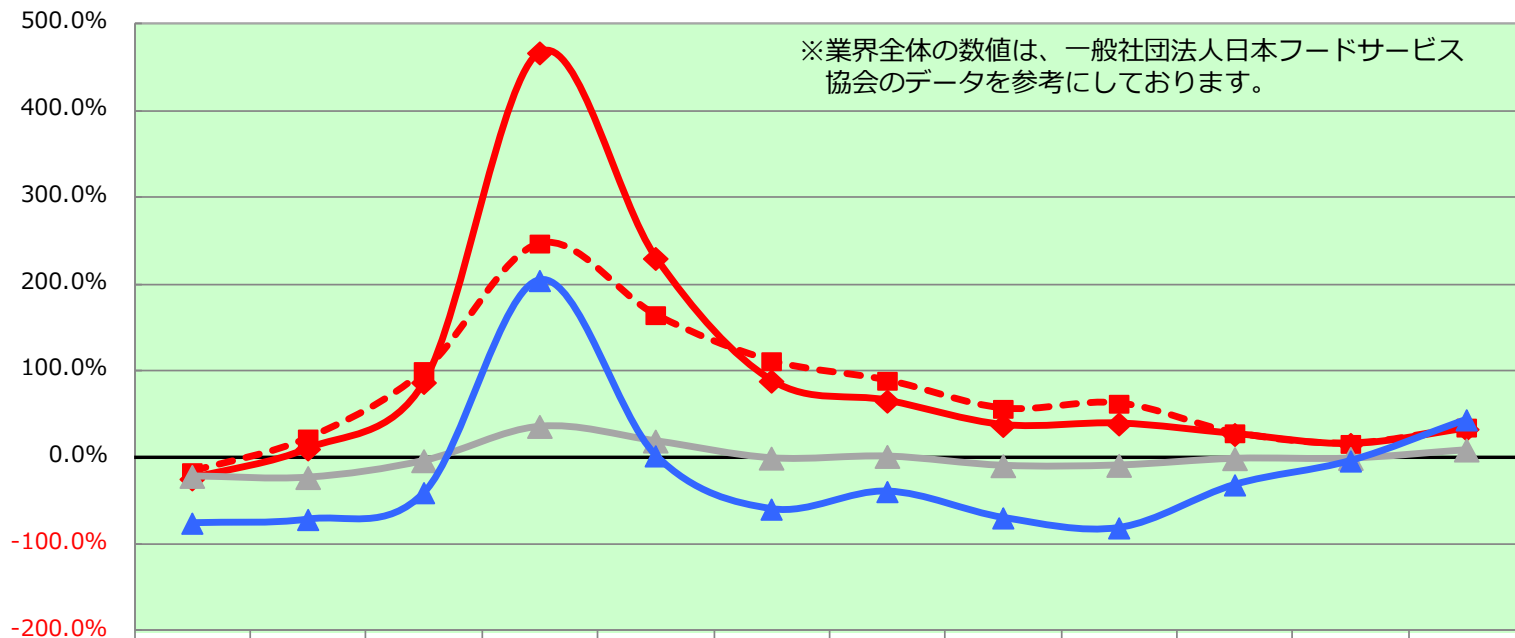
(単位：百万円)

想定為替レート： USD/JPY=113.00

## **Ⅲ. 2021年の概況**

---

# 2021年通期 国内売上高前年対比率 月次推移



	'21/1	'21/2	'21/3	'21/4	'21/5	'21/6	'21/7	'21/8	'21/9	'21/10	'21/11	'21/12
◆ 国内全店合計	-23.9%	10.6%	87.3%	467.4%	230.4%	88.8%	65.8%	37.7%	39.4%	27.4%	15.9%	33.5%
■ 国内既存店合計	-16.1%	22.8%	100.5%	247.5%	165.0%	111.9%	89.3%	56.9%	62.8%	28.7%	16.5%	35.3%
▲ 外食業界全体	-21.0%	-22.3%	-2.9%	36.7%	19.8%	0.1%	2.1%	-8.6%	-8.2%	-0.5%	-0.2%	9.5%
▲ パブレストラ	-74.9%	-70.7%	-39.7%	204.9%	2.7%	-58.7%	-38.5%	-68.8%	-80.4%	-30.8%	-3.2%	44.3%

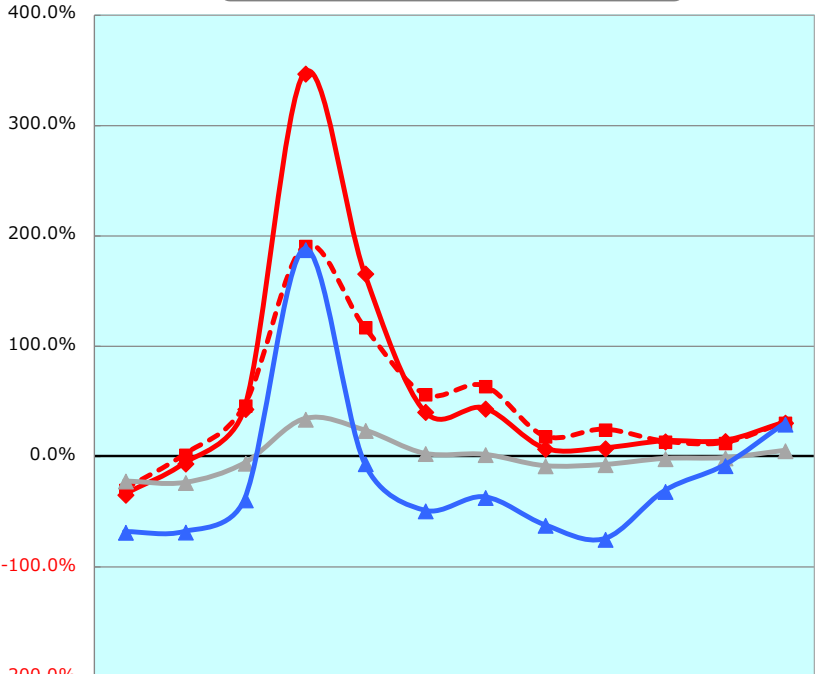
2021年12月期 通期  
 全店 +52.0%  
 既存店 +80.5%

## 2021年 主な出退店

- 5月「モンズーンカフェ たまプラーザ」閉店
- 8月「ラ・ボエム パスタフレスカ」「タコファナティコ」2店舗  
「RAYARD Hisaya-odori Park (名古屋市中区)」にオープン
- 10月「ラ・ボエム パスタフレスカ」  
「イオンモール Nagoya Noritake Garden (名古屋市西区)」にオープン

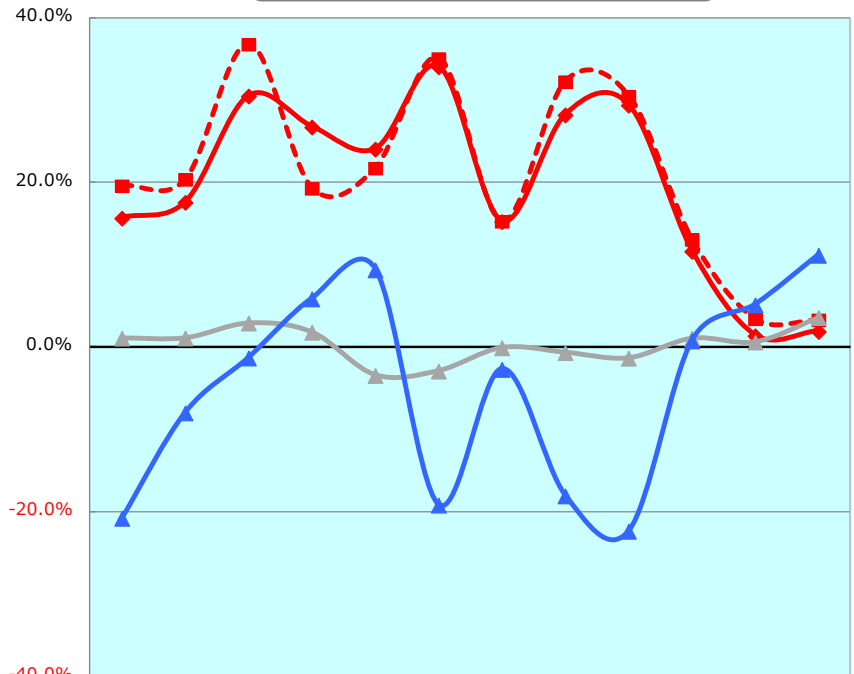
# 2021年通期 国内客数と客単価の前年同期比推移

## 客 数



	'21/01	'21/02	'21/03	'21/04	'21/05	'21/06	'21/07	'21/08	'21/09	'21/10	'21/11	'21/12
国内全店合計	-34.2%	-6.0%	43.5%	347.5%	166.2%	40.8%	43.8%	7.4%	7.7%	14.0%	14.3%	31.0%
国内既存店合計	-29.9%	1.9%	46.5%	191.2%	117.5%	56.8%	64.1%	18.6%	24.7%	13.8%	12.6%	30.9%
外食業界全体	-21.8%	-23.2%	-5.7%	34.2%	24.0%	3.1%	2.1%	-8.1%	-7.0%	-1.6%	-0.9%	5.6%
バprestoran	-68.3%	-68.1%	-39.0%	187.9%	-6.1%	-48.9%	-36.8%	-61.9%	-74.7%	-31.3%	-7.9%	29.7%

## 客 単 価



	'21/01	'21/02	'21/03	'21/04	'21/05	'21/06	'21/07	'21/08	'21/09	'21/10	'21/11	'21/12
国内全店合計	15.7%	17.6%	30.6%	26.8%	24.1%	34.1%	15.3%	28.3%	29.5%	11.7%	1.4%	1.9%
国内既存店合計	19.7%	20.4%	36.9%	19.3%	21.8%	35.1%	15.3%	32.3%	30.6%	13.1%	3.5%	3.3%
外食業界全体	1.1%	1.1%	3.0%	1.8%	-3.4%	-2.9%	-0.0%	-0.6%	-1.3%	1.1%	0.7%	3.6%
バprestoran	-20.8%	-8.0%	-1.3%	5.9%	9.4%	-19.2%	-2.7%	-18.1%	-22.4%	0.8%	5.2%	11.2%

2021年12月期 通期  
 全店+ 28.1%      既存店+ 47.8%

2021年12月期 通期  
 全店+ 18.5%      既存店+ 22.1%

## ●度重なる緊急事態宣言・自粛要請に対する当社の決断

- 極めて厳しい事業環境下、緊急事態宣言下でも通常営業を貫くことを公表 (1/7)
- 第2回緊急事態宣言終盤に、当社26店舗に対し東京都より特措法45条命令発令 (3/18)
- 3/18~3/21の間、命令に従い時短営業
- 3/22 命令の違法性を訴え東京都を提訴 (現在係争中)
- 第3回緊急事態宣言 (4/15~6/20) の際、26店舗に対し45条命令発令
- 45条命令に従わないとする経営判断を下し、営業を継続 (商業施設店舗を除く)
- 上記命令違反に対し、12/16過料決定書面到着。当社は即時抗告 (現在係争中)

## ●国内

- お客様に支えられ、既存店売上高は2019年度実績を上回る
- 愛知県へのドミナント出店 (3店舗)
- 物流再構築・労務費コントロール等による原価改善、前期の不採算店舗閉店、商業施設の協力金収入 (営業外) などにより利益は大幅改善
- 財務体質の健全化 (業績改善、欠損てん補、短期借入の長期借換等)
- 新規事業 (宿泊複合施設の構築・運営) への投資を検討開始

## ●米国 (子会社)

- 駐車場やプロムナードを活用した屋外ダイニングが引き続き好評で黒字化達成
- ラ・ボエムはウエストハリウッド商工会議所主催“Attraction Award”を受賞
- 手厚い米国経済対策 (ローン債務免除・税額控除) により最終利益押し上げ

## ● 出店&業態変更

- 1月 『権八ドバイ』（海外F C店）がオープン
- 8月 「RAYARD Hisaya-odori Park（名古屋市中区）」に2店舗を出店  
『ラ・ボエム パスタフレスカ』  
『タコファナティコ』
- 9月 『権八上海』（海外F C店）がオープン
- 10月 「イオンモールNagoya Noritake Garden（名古屋市西区）」に  
『ラ・ボエム パスタフレスカ名古屋則武新町』を出店
- 11月 白金台のフレンチレストラン『ステラート』を“サパークラブ”に業態変更

## ● 閉店

- 5月 『モンズーンカフェたまプラーザ』を定期借地契約満了に伴い閉店



# 2021年通期 国内業態別業績

2021年12月期 通期	合計	ラ・ボエム	ゼスト	モンスーン	権八	Dinner&LB	FC	その他	本部 販管費
売上高	7,966	2,620	159	1,740	2,107	1,015	125	197	-
全店2020年比	+52.0%	+66.7%	+7.3%	+14.5%	+83.7%	+98.5%	+1.0%	▲9.4%	-
全店2019年比	▲12.6%	+8.0%	▲50.1%	▲20.6%	▲26.6%	+40.9%	▲39.2%	▲48.1%	-
既存店2020年比	+80.5%	+71.6%	+55.8%	+73.4%	+109.6%	+94.1%	+1.0%	+20.2%	-
既存店2019年比	+15.6%	+37.8%	+55.1%	+35.0%	▲8.1%	+58.9%	▲39.2%	▲35.3%	-
営業利益	593	460	▲21	202	451	130	8	8	▲646
営業利益率	7.5%	17.6%	▲13.3%	11.7%	21.4%	12.8%	6.8%	4.2%	0.0%
期末店舗数	43	15	3	9	7	6	1	2	-
2020年12月期 通期	合計	ラ・ボエム	ゼスト	モンスーン	権八	Dinner&LB	FC	その他	本部 販管費
売上高	5,240	1,571	148	1,519	1,147	511	124	218	-
営業利益	▲1,094	▲49	▲49	▲5	▲213	▲132	9	▲80	▲572
営業利益率	▲20.9%	▲3.2%	▲33.5%	▲0.4%	▲18.6%	▲26.0%	7.9%	▲36.9%	0.0%
期末店舗数	41	13	2	10	7	6	1	2	-
2019年12月期 通期	合計	ラ・ボエム	ゼスト	モンスーン	権八	Dinner&LB	FC	その他	本部 販管費
売上高	9,116	2,427	319	2,192	2,870	720	206	380	-
営業利益	150	256	▲35	195	475	▲49	38	▲51	▲679
営業利益率	1.7%	10.6%	▲11.2%	8.9%	16.6%	▲6.8%	18.8%	▲13.5%	0.0%
期末店舗数	47	13	3	10	8	7	1	5	-

(単位：百万円)

- ・住宅街や路面店の多いカフェ ラ・ボエムやディナー店が全店・既存店で2019年度比増収増益
- ・ゼスト・モンスーンカフェは閉店や商業施設内店舗の営業時短等で売上高が伸び悩んだが、収益では、2019年度比で改善
- ・権八は国内のお客様に再認知いただくも、閉店や従前のインバウンド効果が大きく、全店・既存店2019年度比では減収減益
- ・各主要業態とも不採算店（G-Zone銀座）の閉店により利益率は改善

※Dinner&LB：「ブラスリータブローズ」「タブローズラウンジ」「カフェレガート」「ステラート」「LB」「リグニス」

※FC＝フードコロシアム

※その他：「デカダンスデュショコラ」「バルティザンブレッドファクトリー」の他、ウエディングサロンを含む

※「タコファナティコ」はゼストに含む

# 2021年通期 米国（子会社 店舗別業績）

2021年12月期 通期	合計
売上高	13,970
2020年比	+238.8%
2019年比	+209.9%
営業利益	1,161

La Boheme	1212 (twelve twelve)	本部 販管費
5,091	8,878	0
+222.8%	+248.7%	-
+417.3%	+152.0%	-
898	1,723	▲1,460

2020年12月期 通期	合計
売上高	4,123
営業利益	▲786

La Boheme	1212 (twelve twelve)	本部 販管費
1,577	2,546	0
130	▲400	▲517

2019年12月期 通期	合計
売上高	4,507
営業利益	▲1,011

La Boheme	1212 (twelve twelve)	本部 販管費
984	3,523	0
▲327	▲96	▲588

(単位：千USドル)

- 2021年1月はほぼ営業停止、1月29日より営業を再開（屋外営業・テイクアウトのみ）
- 『ラ・ボエム』は駐車場を改装してガーデンダイニングに、『1212』はプロムナード（歩行者通路）にダイニングスペースを確保し、屋外営業を継続
- 徹底した衛生管理、DJ・ライブミュージック等によるエンターテインメント、手軽に楽しめるメニュー、スタッフの高いホスピタリティ、SNS活用で客数増加
- 6月15日から店内営業全面解禁となり、平日売上は落ち着くものの、週末は盛況を維持
- 『ラ・ボエム』はウエストハリウッド商工会議所主催“Attraction Award”を受賞

## 8月13日 (金) グランドオープン 「RAYARD Hisaya-odori Park」に2店舗出店

【所在地】 愛知県名古屋市中区

愛知県  
第二弾



名古屋を代表する都心のオアシスとして、100m道路「久屋大通」の中央分離帯を利用した全国的にも希少な南北約2kmに渡る帯状の公園「久屋大通公園」。

再開発により、その北エリアと中部電力MIRAI TOWER (テレビ塔) を臨むエリアに公園一体型の商業施設として2020年9月に誕生した施設。

テーマ別に4つのZONEに区切られ、当社はテレビ塔を臨むZone4「ミズベヒロバ」に2店舗を出店。



【席数 面積】 45席 (31.54坪)  
【業態】 手作り生地 (グルテンフリー) の本格タコス専門店



【席数 面積】 32席 (27坪)  
【業態】 生麺を使用したパスタ専門店

## 10月27日 (水) グランドオープン 「イオンモールNagoya Noritake Garden」に1店舗出店

【所在地】 愛知県名古屋市西区

愛知県  
第三弾



名古屋駅から1 kmの徒歩圏内にありながら、自然環境豊かな場所の一角に、「商業とオフィスの複合型施設」をテーマとした同施設が誕生。6階建ての施設には、オフィス、スーパー、コンビニ、書店、郵便局、託児所、医療施設、フィットネス、レストランやフードコートなどが集約され、グランドオープンに合わせて、当社は2階のGarden Restaurantエリアに1店舗を出店。



『ラ・ボエム パスタフレスカ名古屋則武新町』2F

【席数 面積】 50席 (41.44坪)

【業態】

「カフェ ラ・ボエム」から派生した新業態、生パスタ専門店の3号店。  
ラ・ボエムの定番パスタをモチモチの絶品生麺（浅草開化楼開発の低加水パスタフレスカ）でお楽しみいただけます。





## 11月26日 (金) 『ステラート』を“サパークラブ”へ業態変更



都内白金台にある本格フレンチレストラン「ステラート」を、大人の社交場“サパークラブ”としてリニューアルオープン。

店舗での生演奏を看板にしてきた代官山の「タブローズラウンジ」（当社店舗）はこのコロナ禍において盛況なことから、ステラートの業態転換に踏み切りました。

昼間は差し込む光の中でアフタヌーンティーを、夜は天窓から星空を望む幻想的な雰囲気の中で趣向を凝らした“料理とお酒”、選りすぐりのアーティスト達による情熱的な“生演奏”をお楽しみいただけます。



## 『La Boheme』（West Hollywood）

駐車場を改装したガーデンパティオラウンジ



## 『1212 (twelve twelve)』（Santa Monica）

プロムナード（歩行者通路）をダイニングスペースに



### “WEST HOLLYWOOD CREATIVE BUSINESS AWARDS” 入賞

『ラ・ボエム』（ウエストハリウッド）は、お客様に安心して楽しんでいただける空間作りやサービスを提供したことが評価され、2021年11月に開催された「WEST HOLLYWOOD CREATIVE BUSINESS AWARDS」にて、並みいる有名店を抑えて“Attraction Award”を受賞。

このAWARDは、ビジネスにおける創造性や革新性を称える、ウエストハリウッド商工会議所が主催するイベント。“Attraction Award”は、観光客や地域を訪れる人々にサービスを提供し、最もウエストハリウッドに人々を惹きつけた企業に贈られる賞。

## **IV. 2022年の取り組み**



## ●2022年度の経営環境見通し

- 繰り返されたコロナ対策のダメージによる世界的な経済鈍化リスク
- 国境開放の時期が不透明
- インフレ懸念
- 緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の再発出懸念

## ●当社の方針

- 財務健全化（短期借入を長期へ借換、有利子負債の計画的圧縮）
- 営業基盤の強化（お手頃価格帯メニューの拡充、マネジメント層やフロアサービスに係るスタッフへの教育・指導の徹底）
- グループ全体のマーケティング活動の強化（子会社COO兼務役員をCMOに選任）
- インバウンド需要は見込まず
- 経済環境と当社の財政状態を見つつ、新規事業への投資時期を検討
- 新規出店は現状では1店舗（『タコファナティコ渋谷』2/1オープン済）、当社業態に適した好物件があれば出店を検討

## ●米国（子会社）

- 2店舗のコロナ禍における一時的な屋外営業許可は2022年6月末まで延長  
（『ラ・ボエム』は通年屋外営業許可を申請中、『1 2 1 2』は7月以降有料となるが継続可能な方向に）
- ダウンタウン・ロサンゼルスにて新規出店を模索



2月1日 (火) グランドオープン  
「タコ ファナティコ渋谷」 渋谷センター街に出店



【所在地】 東京都渋谷区宇田川町32番7号 HULIC & New UDAGAWA

【席数 面積】 24席 (約17坪)

【業態】 手作り生地 (グルテンフリー) の本格タコス専門店

【特徴】 中目黒、名古屋に続く3号店。ブルーコーンを使った自家製トルティーヤはグルテンフリー。オーセンティックなタコスから、個性的なオリジナルタコスまでをラインナップ。メキシカンタパスや厳選プレミアムテキーラ、メスカルとともに楽しみいただける業態です。



# 參考資料

# 展開コンセプト (連結)

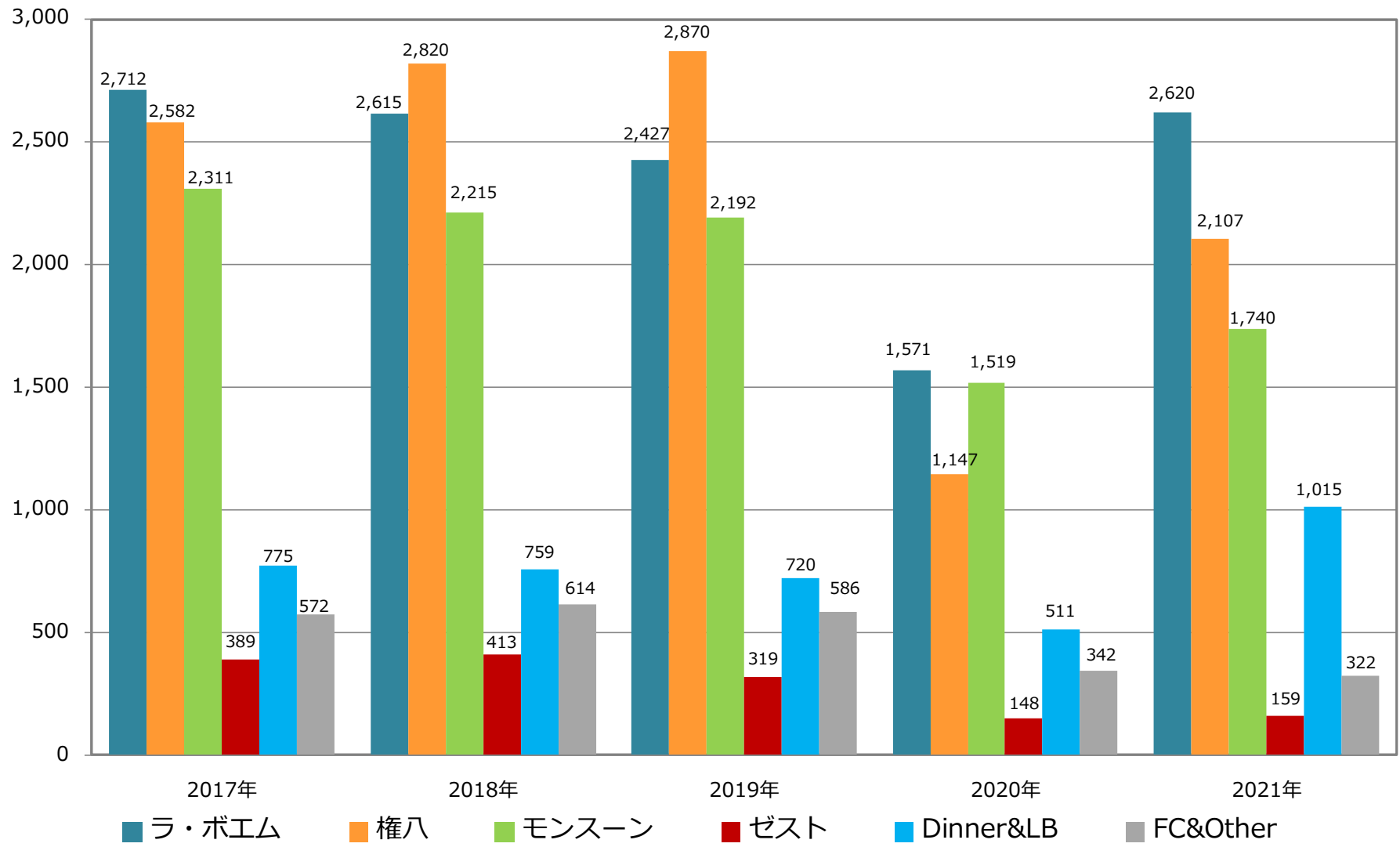
計45店舗 (2021.12月末)

カフェ ラ・ボエム	権 八	モンスーン カフェ	ゼスト キャンディーナ	ディナー店	※ F C ・ その他 業 態
   <p>イタリアン</p> <p>15店舗</p>	   <p>創作和食 &amp; 寿司</p> <p>7店舗</p>	   <p>エスニック</p> <p>9店舗</p>	    <p>テックスメックス</p> <p>3店舗</p>	 <p>海外 (米国)</p>   <p>7店舗</p>	 <p>海外 (米国)</p> <p>1212</p>  <p>4店舗</p>
2,620万円	2,107百万円	1,740百万円	159百万円	1,601百万円	1,344百万円
27.4%	22.0%	18.2%	1.7%	16.7%	14.0%

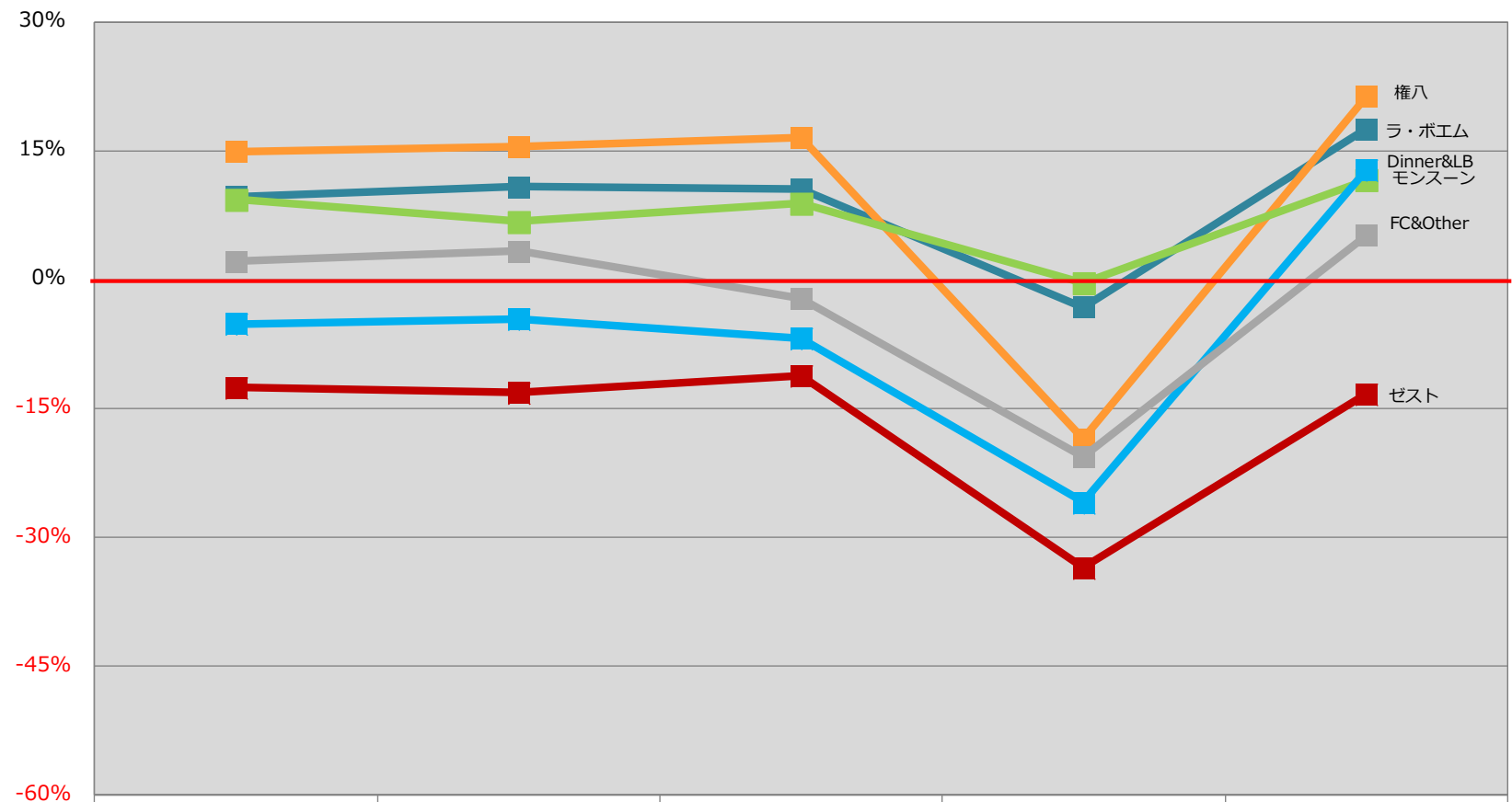
※コンセプトの「F C」とは、「FOOD COLOSSEUM (フードコート業態)」の略です。  
 ※上記金額は2021年12月期通期の連結売上高とそのシェア (%) を記載しております。  
 ※2022年2月1日付にて『タコファナティコ渋谷』がオープンしており、同店を含めると本資料発表日現在の累計店舗数は46店舗となります。

# 国内コンセプト別 全店売上高の推移

(単位：百万円)



# 国内コンセプト別 全店営業利益率の推移



	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
ラ・ボエム	9.7%	10.8%	10.6%	-3.2%	17.6%
権八	14.9%	15.4%	16.6%	-18.6%	21.4%
モンスーン	9.4%	6.8%	8.9%	-0.4%	11.7%
ゼスト	-12.6%	-13.2%	-11.2%	-33.5%	-13.3%
Dinner&LB	-5.1%	-4.6%	-6.8%	-26.0%	12.8%
FC&Other	2.1%	3.3%	-2.1%	-20.6%	5.2%

# 損益計算書概要 (国内)

2021年12月期 通期		合計	ラ・ボエム	ゼスト	モンスーン	権八	Dinner&LB	FC	その他	本部 販管費
売上高		7,966	2,620	159	1,740	2,107	1,015	125	197	-
売上原価		6,603	2,108	170	1,502	1,620	868	114	187	31
売上総利益		1,362	511	▲11	238	486	147	10	10	▲31
販管費		769	51	9	35	35	17	2	1	615
営業利益		593	460	▲21	202	451	130	8	8	▲646
営業利益率		7.5%	17.6%	▲13.3%	11.7%	21.4%	12.8%	6.8%	4.2%	0.0%
期末店舗数		43	15	3	9	7	6	1	2	-
2020年12月期 通期		合計	ラ・ボエム	ゼスト	モンスーン	権八	Dinner&LB	FC	その他	本部 販管費
売上高		5,240	1,571	148	1,519	1,147	511	124	218	-
売上原価		5,679	1,591	190	1,486	1,315	621	112	293	67
売上総利益	▲438	▲19	▲42	32	▲168	▲109	11	▲75	▲67	▲67
販管費		655	30	7	38	45	23	1	4	504
営業利益	▲1,094	▲49	▲49	▲5	▲213	▲132	9	▲80	▲572	▲572
営業利益率	▲20.9%	▲3.2%	▲33.5%	▲0.4%	▲18.6%	▲26.0%	7.9%	▲36.9%	0.0%	0.0%
期末店舗数		41	13	2	10	7	6	1	2	-
2019年12月期 通期		合計	ラ・ボエム	ゼスト	モンスーン	権八	Dinner&LB	FC	その他	本部 販管費
売上高		9,116	2,427	319	2,192	2,870	720	206	380	-
売上原価		8,087	2,132	347	1,955	2,354	747	164	426	▲38
売上総利益		1,028	295	▲27	237	515	▲26	42	▲46	38
販管費		878	38	8	41	39	22	3	5	718
営業利益		150	256	▲35	195	475	▲49	38	▲51	▲679
営業利益率		1.7%	10.6%	▲11.2%	8.9%	16.6%	▲6.8%	18.8%	▲13.5%	0.0%
期末店舗数		47	13	3	10	8	7	1	5	-

(単位：百万円)

※Dinner&LB：「ブラスリータブローズ」「タブローズラウンジ」「カフェレガート」「ステラート」「LB」「リグニス」

※FC＝フードコロシウム

※その他：「デカダンス ドュ ショコラ」「バルティザン ブレッド ファクトリー」の他、ウエディングサロンが含まれます。

30 ※「タコファナティコ」はゼストに含んでおります。

# 損益計算書概要 (米国連結子会社)

2021年12月期 通期	合計	La Boheme	1212 (twelve twelve)	本部 販管費
売上高	13,970	5,091	8,878	0
売上原価	11,347	4,192	7,155	0
売上総利益	2,622	898	1,723	0
販管費	1,460	0	0	1,460
営業利益	1,161	898	1,723	▲1,460

2020年12月期 通期	合計	La Boheme	1212 (twelve twelve)	本部 販管費
売上高	4,123	1,577	2,546	0
売上原価	4,392	1,446	2,946	0
売上総利益	▲269	130	▲400	0
販管費	517	0	0	517
営業利益	▲786	130	▲400	▲517

2019年12月期 通期	合計	La Boheme	1212 (twelve twelve)	本部 販管費
売上高	4,507	984	3,523	0
売上原価	4,931	1,311	3,619	0
売上総利益	▲423	▲327	▲96	0
販管費	588	0	0	588
営業利益	▲1,011	▲327	▲96	▲588

(単位：千USドル)

※上記は業績管理用の決算整理前数値です。

# 2021年12月期通期 赤字店舗一覧

	店舗名	2021年 通期累計	
		売上高	営業利益 (販管費配賦前)
1	モンsoonカフェ舞浜イクスピアリ	348,706	▲23,810 ※
2	権八お台場	79,508	▲16,589 ※
3	カフェ ラ・ボエムお台場	94,824	▲16,239 ※
4	ステラート (白金台)	74,292	▲15,207
5	ブラッスリー タブローズ (代官山)	115,666	▲14,272
6	権八 NORI-TEMAKI 原宿	42,170	▲13,140
7	ウェディングサロン	41,999	▲12,415
8	ラ・ボエム パスタプレスかららぽーと愛知東郷	77,823	▲9,983 ※
9	バルティザン ブレッドファクトリー (南青山)	16,163	▲9,902
10	モンsoonカフェららぽーと愛知東郷	65,010	▲9,762 ※
11	ゼスト キャンティーナお台場	56,587	▲9,498 ※
12	モンsoonカフェお台場	102,177	▲3,147 ※

(単位：千円)

※商業施設店舗につきましては、緊急事態宣言・まん延防止等重点措置下において、施設側の方針により営業時間短縮および休業、酒類提供停止を実施しております。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止協力金として2021年12月期では累計235百万円を受給しております。

(注) 2021年12月期において新規にオープンした店舗は上記の一覧には含まれておりません。



## **注意事項**

- ・本資料は情報提供を目的としており、当社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。
- ・本資料における将来に関する事項は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日における仮定を前提としております。
- ・本資料の全部または一部の無断複製や転用等をご遠慮ください。

## **Disclaimer**

- ・ This document is intended to provide information of our company only. This information is not intended to solicit buying or selling our company's stock.
- ・ This document contains forward-looking statements which represent the Company's expectations or beliefs concerning future events. The Company's actual results could differ materially from those stated or implied in the forward-looking statements herein.
- ・ Please refrain from replicating or diverting this document without prior approval from Global-Dining Inc.



<資料に関するお問い合わせ>  
総務管理グループ  
050-5444-9868  
stock@global-dining.com